

石川



金沢支局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3
☎076-261-9131 F A X 231-5254
メール kanazawa@yomiuri.com

能登支局
☎0767-53-0280 F A X 53-2515

輪島支局
☎0768-22-1109 F A X 22-2233

加賀支局
☎0761-23-2633 F A X 23-2635
珠洲通信部 ☎0768-84-5217

北陸支社
〒933-8543 高岡市下関町4-5
☎0766-26-6812 F A X 26-6814
広告☎26-6863 販売☎26-6866
事業☎26-6825
ホームページ www.yomiuri.co.jp
/local/hokuriku/

【広告】読売エージェンシー中日本
本社(高岡) ☎0766-21-3417
金沢 ☎076-261-7985
【折込】北陸読売 I S ☎076-204-9486
【旅行】読売旅行北陸営業所
☎076-221-0036

購読は
0120-4343-81

4月20日(日曜日)
旧 3月23日<先勝>

★穀雨★
月齢21.7
(正午)



金沢標準	輪島港
日出 5.13	満潮 16.58
日入 18.32	干潮 1.36
月出 0.35	
月入 9.50	

あすの暦

足音

4月

復旧の基礎測量着々と

内灘町白帆台で16日、町道の測量が行われていた。「エイト日本技術開発」(本店・岡山市)の測量士6人が、ときはきと作業を進めていく。

「ここは測れているか」。現場統括の藤原哲男さん(61)が、結果が映し出されたタブレット端末を確かめながら声をかけた。この日の作業範囲は700㍓。「測り直し」を防ぐため、1か所終えるたびに毎回確認する。

天気は左右される作業でもある。雨が降ると機械が正確に測れず、中断するしかない。藤原さんは現場でも天気予報をこまめにチェックする。この日は海からの強風が終日吹きつけていたが、夕方までに予定範囲を終わらせることができた。

町では液状化で、地盤が水平方向にずれ動く「側方流動」が広範囲に発生した。上下にも激しく動き、境界が不明確

内灘町北部



になった土地が多数ある。測量には光のレーザーを360度発射して距離や角度を測る機械「地上レーザ」やドローンなどが使われ、被害状況をデータとして記録。町は今後、登記されている地震前の地籍図などと比較し、地権者

の立ち会いの下、被災前の境界を確認していくことになる。

◇ 3月に策定した町の災害復興計画では、復興まちづくりとして掲げる5施策の冒頭に「住宅等の早期再建を促す土地境界の明確化」を打ち出した。完了目標を2028年度に据える。

土地の境界が定まらないと、建物や宅地の修復や売買などが進まない。ここで重要になってくるのが、道路のような官有地と周辺の民有地との境界だ。

幹線道路の県道8号の測量は、県が今年3月までに、宮坂地区からかほく市大崎地区

現場の作業を統括する藤原さん(右)。「測量が復旧の基礎を担っている。効率よく進めていきたい」(16日、内灘町白帆台で)

までの約6㍓を全て終わらせる。並行して復旧も順次進めている。

一方、町道は町が測量2社に委託した。このうち北部は、東日本大震災や熊本地震など過去の被災地でも実績のあるエイト日本技術開発が担当。岡山県や大阪府をはじめ全国各地の支社などから応援の測量士を集め、2月からフル稼働で着手している。今後は被害がより深刻な西荒屋や室地区へと進み、21地点計16・7㍓の測量と工事設計を来春までに終える予定だ。

測量という作業が表に出ることはめったにないが、こうして丹念に収集したデータは工事計画の基礎となる。「測量をいかに早く終わらせるかで復旧のスピードも変わっていく。内灘の住民が普段通りの生活に戻る手助けになれば」と藤原さんは力を込める。

(平松千里)